

講堂の建築

講堂は東寺の敷地のちょうど中央に建っており、この寺に根付く精神にとっての講堂の重要性を表している。講堂は東寺が大きく焼失した 1486 年の火事の後最初に再建された建物だった。再建は 5 年後の 1491 年に完了し、この寺の中で最も古い現存する建物の一つとなった。

講堂で注目すべきは、内部の仏像たちである。これらの仏像は、空海（774-835）によって病の治癒と勉学を助けるものとして設計された立体的な曼荼羅になっている。講堂には 1 つの入母屋造の屋根と内部の仏像を見せることができる巨大な扉が付いている。